

日本山岳遺産基金通信



日本山岳遺産基金

JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

2021年度、当基金は設立12年目となりました。昨今のコロナ禍でも活動を継続できるのは、みなさまからのご支援のおかげです。昨年より続く新型コロナウイルス感染症の影響はいまだ大きく、日本山岳遺産基金も2月に開催を予定していた「日本山岳遺産サミット」を中止させていただきました。しかし、ウェブサイト上で20年度認定地の紹介ページを作成するなど、コロナ禍の情勢下でも情報を発信できるように日々活動しております。日本の山岳環境を次世代に引き継ぐために尽力して参りますので、今後も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

新たに3地域／団体を日本山岳遺産に認定

昨年度は新型コロナウイルスの影響で日本全国の各種イベントが中止となりました。このコロナ禍で日本山岳遺産認定への応募が集まるのか、事務局では心配もありました。しかし、8月末の締め切りまでに4つの団体から申請を受け付け、アドバイザリーボードの助言のもと、今年度は下記の3地域／団体を新たに認定することとしました。

認定団体には来年度の活動に供する助成金を今年度末（2022年3月末）に支給し、山と溪谷社／日本山岳遺産基金の雑誌やウェブサイトなどのメディアを通じて広報し、活動を支援していきます。

ます。これにより当基金が認定した日本山岳遺産は全国42の地域／団体となりました。

それぞれの認定地と認定団体の活動は次ページに詳しく掲載しています。また例年、年に1回行ってきました「日本山岳遺産サミット」については、昨年同様、今年度の開催も見送ることとなりました。代わりに、各団体の活動内容を紹介する特設ページを当ウェブサイトにて公開予定。新たに認定された日本山岳遺産の活動を知ってもらうための準備を進めております。2月に公開予定ですので、ウェブサイトの情報更新にご注目ください。

2021年度日本山岳遺産とこれまでの認定地

- ① 檜形山(山梨県)／檜形山ネットワーク
- ② 小金沢シオジの森(山梨県)／シオジ森の学校
- ③ 乙女高原(山梨県)／乙女高原ファンクラブ
- ④ 石鎚山(愛媛県)／久万高原町
- ⑤ 早池峰山(岩手県)／早池峰にゴミは似合わない実行委員会
- ⑥ 九州中央山地五家荘エリア(熊本県)／泉・五家荘登山道整備プロジェクト
- ⑦ 夕張岳(北海道)／ユウバリコザクラの会
- ⑧ 七時雨山(岩手県)／七時雨口マンの会
- ⑨ 臥龍山(広島県)／芸北自然保護レンジャー
- ⑩ アボイ岳(北海道)／アボイ岳ファンクラブ
- ⑪ 金華山(宮城県)／特定非営利活動法人FIRST ASCENT JAPAN.
- ⑫ 船窪岳(長野県・富山県)／船窪小屋・道しるべの会
- ⑬ 大台ヶ原大杉谷(三重県)／公益社団法人大杉谷登山センター
- ⑭ 吾妻山(福島県)／吾妻山自然倶楽部
- ⑮ 嶺ノ峰(長野県)／長野県大町岳陽高等学校山岳部
- ⑯ 徳本峠(長野県)／古道・徳本峠道を守る人々
- ⑰ 南木曾岳(長野県)／南木曾山士会
- ⑱ 三嶺(高知県・徳島県)／三嶺の森をまもるみんなの会
- ⑲ 美瑛富士(北海道)／山のトイレを考える会
- ⑳ 嘉穂アルプス(福岡県)／嘉穂三山愛会
- ㉑ ニツ森(秋田県)／一般社団法人白神コミュニケーションズ
- ㉒ 岩手山(岩手県)／岩手山地区パークボランティア連絡協議会
- ㉓ 三ツ峠(山梨県)／三ツ峠ネットワーク
- ㉔ 霧ヶ峰(長野県)／霧ヶ峰草原再生協議会

- ㉕ 入笠山(長野県)／入笠ボランティア協会
- ㉖ 伯耆大山(鳥取県)／クラウドワーク大山蒜山
- ㉗ 大雪山・黒岳(北海道)／一般社団法人大雪山・山守隊
- ㉘ トムラウシ山(北海道)／新得山岳会
- ㉙ 飯豊山(山形県・新潟県・福島県)／特定非営利活動法人飯豊朝日を守る会
- ㉚ 鹿沼市・岩山(栃木県)／機動パトロール隊
- ㉛ 高田大岳(青森県)／十和田山岳振興協議会
- ㉜ 大笠山(富山県)／五箇山自然文化研究会
- ㉝ 伊吹山(滋賀県・岐阜県)／伊吹山を守る自然再生協議会
- ㉞ 比叡山・比良山地(滋賀県・京都府)／比良比叡トレイル協議会
- ㉟ 脊振山系(福岡県・佐賀県)／脊振の自然を守る会
- ㊱ 銀山(千葉県)／金谷ストーンコミュニティ
- ㊲ 信越トレイル(長野県・新潟県)／特定非営利活動法人信越トレイルクラブ
- ㊳ 金剛山(大阪府・奈良県)／金剛鍊成会
- ㊴ 山王山(長崎県)／新上五島町荒川郷

①～㉔は2020年度までに認定の日本山岳遺産



㉔ 鈴岳(宮崎県)
フォレスト・マントル
上鹿川



㉔ 京都北山・芦生の森(京都府)
一般社団法人 芦生もりびと協会



㉔ 竜ヶ岳(三重県)
竜ヶ岳自然環境保全推進
委員会・竜ヶ岳登山道整備
の会

2021年度 日本山岳遺産認定地・認定団体の紹介

新たに認定した3つの日本山岳遺産、それぞれの認定地の概要と認定団体の活動内容を紹介します。

三重県 竜ヶ岳 認定団体 竜ヶ岳自然環境保全推進委員会、竜ヶ岳登山道整備の会

山の概要 鈴鹿国定公園に指定される鈴鹿山脈の中ほどにある。標高1099.6mの低山ながら900mあたりで森林限界となる。麓の宇賀溪には奥深い谷が形成され、多様な自然環境を有している。山頂付近はササとシロヤシオの樹木のみ開放的な景観だが、登山道周辺には絶滅危惧種Ⅱ類の植生もある。宇賀溪にはかつて行人が滋賀県と往来する宿場が形成され、また山麓は炭焼きで生計を立ててきた歴史をもつ。「鈴鹿セブンマウンテン」の一山。

認定団体 2011年から竜ヶ岳の安全登山を目指す登山道整備活動をボランティアメンバーで開始。2017年に竜ヶ岳登山道整備の会を発足、さらに、2021年には同会会員で竜ヶ岳自然環境保全推進委員会を立ち上げ、後年まで竜ヶ岳の特異な自然環境を守

り維持していくことを念頭に、SDGs（持続可能な開発目標）を掲げ、環境への影響を最小限に抑えながら登山道の崩壊箇所の補修や改修、崩壊の進行を遅らせる未然防止策を実施している。

認定理由 美しい自然が残る山で、登山道整備による環境保全活動を長年続けてきた実績を評価。



遠足尾根中腹の通行危険箇所整備完了後に

京都府 京都北山・芦生の森 認定団体 一般社団法人 芦生もりびと協会

山の概要 全面積（約4,200ha）の約半分は人の手が加えられていない天然林。標高600m付近まではコナラや常緑広葉樹であるウラジロガシ、ソヨゴなどの暖温帯林構成種が見られる。それ以上の標高ではブナ、ミズナラを主体とした冷温帯林構成種が生育する。気候区分としては、日本海型と太平洋型の移行帯に位置することから非常に豊かな生態系が形成されている。木本類243種、草本類532種、シダ類85種が確認されている。

認定団体 2017年1月設立。芦生の森の豊かな自然を守り生かす活動を行い、その周辺地域に住む人々が自然と共生し、持続的かつ循環的な自然環境及び社会環境を実現することに寄与すること

を活動の目的としている。その目的のためガイドツアー窓口の一本化、ガイド登録・養成、地域内の小中学校や地域住民に向けた芦生の森に関する啓発活動、保全に関する活動を行っている。

認定理由 芦生の森の啓発活動を行なうなど、次世代に豊かな自然を受け継ぐためのさまざまな活動を評価。



芦生の森の巨木で遊ぶ子供たち

宮崎県 鉾岳 認定団体 フォレスト・マントル上鹿川

山の概要 鉾岳（1277m）は、宮崎県北部に位置する上鹿川を取り巻く大崩山系に属する。急峻な地形で温暖帯から冷温帯までが垂直的に存在し、険しい山間を蛇行するV字谷には瀑布、甌穴などが展開する。変化に富んだ溪谷が、花崗岩の岩肌や自然林と調和し美しい景観を作り出す。急峻な地形ゆえに森林施業などの生産活動の場となり難く、結果として、原生的な自然林がまとまって生育している数少ない地域のひとつとなっている。

認定団体 2013年、地域団体「延岡チェンソーアートレンジャー部隊」を母体とし、森林・山村多面的機能発揮対策交付金の活用団体として設立。2019年、一般ボランティア団体として事業を継続し、宮崎北部森林管理署との「多様な活動の森」協定を更

新。林木遺伝資源保存林への防鹿ネットの設置や新たな天然杉の発掘、そのルートの整備などを実施する。更に、エリア内の自然観察会などのイベントを開催し、自然を活用した地域活性化にも貢献している。

認定理由 ボランティア団体として事業を継続し、登山道の整備やエリア内の自然観察会などのイベントを実施している点を評価。



防鹿ネットの資材を運び入れ設置する

日本山岳遺産基金×ヴィブラム 登山道整備プロジェクトを実施



×



イタリア発の高性能ソールメーカー、ヴィブラムジャパンと協働で「日本山岳遺産基金 × ヴィブラムジャパン 登山道整備プロジェクト」を実施しました。このプロジェクトは、持続可能な環境保全活動である「ザ・サステナブル・ウェイ」への挑戦を優先事項に掲げ、その活動の一環として登山道保全を大きな課題と考えるヴィブラムジャパンが、国内で登山道整備を行っている団体に資材・物品購入費や輸送運搬費などを拠出。当基金を通じて助成を希望する団体を募集・選考し、協働して支援していく活動です。

2021年4月14日から7月15日まで助成先団体を募集し、その結果、「北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会」と「西川山岳会」の2団体に助成を行いました。

■ 北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会（岐阜県高山市）



白出沢ルート崩壊箇所の現状復旧作業

飛騨山脈（北アルプス）は、槍・穂高連峰を中核とする山岳と、乗鞍岳及びその山麓に広がる高原を含む地域で、貴重な動植物が多数生息している。北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会は、北アルプス岐阜県側の広範囲な登山道を対象に活動してきた。

同団体は1982年設立。環境省、飛騨森林管理署、岐阜県北アルプス遭難対策協議会をはじめ、観光協会、山小屋等で構成。北アルプスの登山道の維持管理、周辺環境の保全に努めてきた。

北アルプスは、2020年4月からの群発地震や7月の豪雨災害により、登山道各所に大きな被害を受け、特に岐阜県側から奥穂高岳へ向かう主要路である白出沢ルートでは200～500メートルに渡り登山道が崩落し、通行不能となっていた。今回の助成金を利用して、白出沢ルートでは、災害復旧作業として、耐久性の高い金属製のハシゴやステップの設置と、継続的な補修をするための資材置場の修復など、次年度の開通に向けた準備を行った。また、新穂高センター～鍋平園地の登山道の共同整備を行った。

■ 西川山岳会（山形県西川町）



草刈り機を使用して登山道の狩り払いを実施

朝日連峰は山形県と新潟県の県境にまたがる巨大な山塊。冬の偏西季節風をまともに受けるので、全国有数の多雪地帯である。盛夏に至るまで残る多量の雪は、多様な高山植物に飾られた魅力的な原始的景観を形作っている。

西川山岳会は1961年に結成され、主に朝日連峰、月山をホームグレンデとして活動している。登山技術の習得はもちろん、山小屋管理や登山道整備による登山者の安全確保、植生保護と復元に積極的に取り組んできた。

朝日連峰は有名な登山ルートはさまざまな団体の協力によって整備されてきたが、登山者の少ないルートについては山岳関係者のボランティア以外整備の方策がなかった。特に今回、同団体の申請箇所となった天狗小屋からオツボ峰に至るルートは訪れる人が少なく道が荒れていた。今回の助成金で2021年9月18～21日に朝日連峰の出谷川（でやがわ）から明光山までの登山道整備を実施。参加者11人が草刈機4台を使って刈払い、刈った草の後片づけ等の作業を行った。

北アルプス安全登山アピール、今年はオンラインで実施

7月31日（土）に富山、長野、岐阜県の山岳遭難救助隊や自治体などで構成される「北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議」が、安全登山啓発活動の一環として「北アルプス安全登山アピール」を、今年はオンライン形式で実施し（昨年は中止）、本イベントを当基金が後援しました。イベントでは、各県警察の山岳警備隊・救助隊が実際に起こった遭難事例を映像などで紹介しながら、遭難しないためのコツや、遭難したときの救助要請方法などを説明しました。



実際の救助の様子などが上掲

コロンビアスポーツウェアジャパンが GEARLOOP MARKETでの売上を当基金に寄付

株式会社コロンビアスポーツウェアジャパン（以下、コロンビア）が、10月30日（土）に東京・代々木公園で開催されたアウトドア系のフリーマーケットイベント「GEARLOOP MARKET（ギアループマーケット）」に「ECOLUMBIA（エコロンビア）」として出店しました。ECOLUMBIAブースでは、コロンビア社員のアウトドアウェアやグッズの放出・販売に加えて、当基金の活動を伝えるパネルと募金箱を設置し、来場客に広く寄付を募りました。その結果、280,400円を売り上げ、11,661円の募金が集まりました。それらをあわせた292,061円が当基金に寄付されました。



ECOLUMBIAブースは盛況となった

過去認定地・乙女高原のボランティア活動に参加

2010年度の日本山岳遺産、山梨県・乙女高原で2年ぶりに草刈りイベントが開催され、11月23日（祝）に当基金事務局の3名がボランティアで参加してきました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため有志による限定的な規模で実施された本年は、乙女高原ファンクラブ会員ほか計66名が参加。草刈り作業や刈った草を遊歩道に敷く作業などを分担して行い、冷え込みが厳しい標高1700mの草原で汗を流しての活動となりました。当基金は過去認定地の活動を広報することにより、認定団体への支援を継続して行っています。



多様な植生を守るために定期的な草刈りが必要

組織（2021年12月20日現在）

■ 正会員

株式会社山と溪谷社
株式会社インプレスホールディングス

■ 会長

川崎深雪（株式会社山と溪谷社 代表取締役会長）

■ 副会長

二宮宏文（株式会社山と溪谷社 代表取締役社長）

■ 監事

中村健一（株式会社 Impress Professional Works）

■ 事務局長

吉野徳生（株式会社山と溪谷社）

■ 特別会員

公益社団法人日本山岳会
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
日本勤労者山岳連盟

■ 法人賛助会員（50音順）

株式会社アライテント

株式会社システム・クリエート

株式会社千秋社

株式会社総合サービス

株式会社トラベルギャラリー

日本山岳救助機構合同会社(jRO)

有限会社穂高岳山荘

北海道地図株式会社

株式会社モンベル

■ 個人賛助会員

3名

■ アドバイザリーボード

下野綾子（公益社団法人日本山岳会、東邦大学准教授）

田中文男（公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会顧問）

西本武志（元日本勤労者山岳連盟会長）

野口 健（アルピニスト）

山川陽一（公益社団法人日本山岳会）

2020年度収支報告

前年度繰越金…………… 15,490,223円

収入

会員費…………… 550,000円

協力金等…………… 241,312円

寄付金等…………… 1,022,000円

その他…………… 99円

収入合計…………… 1,813,411円

支出

プロモーション費…………… 292,155円

イベント費用…………… 0円

基金運営費…………… 126,832円

助成金…………… 2,470,000円

支出合計…………… 2,888,987円

収支

…………… ▲1,075,576円

次年度繰越金…………… 14,414,647円



日本山岳遺産基金事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング 株式会社山と溪谷社内

TEL 03-6744-1900（代表） FAX 03-6744-1928

<https://sangakuisan.yamakei.co.jp/> e-mail: kikin_info@yamakei.co.jp

発行＝2021年12月20日